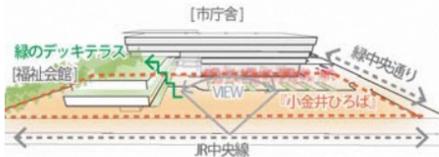


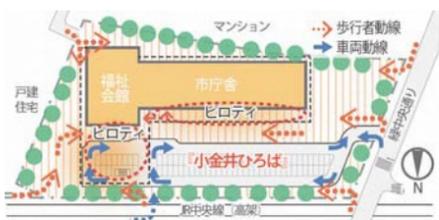
## にぎわいを生み良好な住環境を整える 3つのポイント

### POINT1 みんなが集まりたくなる「小金井ひろば」が街とつながる



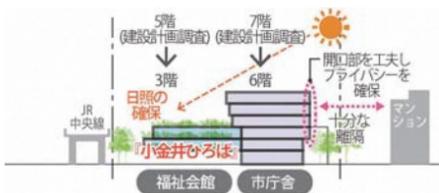
- ・緑中央通りに向かって大きく開き、奥行きあるオープンスペースを整備します。
- ・既存の緑を活かし、潤いある豊かな住環境を保ちます。福祉会館は高さを3階に抑え、緑のデッキテラス、屋上庭園と緑の風景を繋ぎます。

### POINT2 全方位から安全で快適なアクセスができる



- ・敷地内の歩道を明快に整備し、ゆったりとアプローチできるよう計画します。
- ・アクセス動線にピロティを設け、強い日差しや雨の影響を受けない快適なアプローチを整備します。

### POINT3 高さを抑え、プライバシーに配慮…周辺の住環境に配慮



- ・市庁舎（6階建）と福祉会館（3階建）の高さを抑えることで日照を確保し、圧迫感を軽減します。
- ・住宅（西側、東側）から十分な引きをとり、開口部を工夫することによってプライバシーを確保し、光害を防止します。

## 多彩な手法でLCC(ライフサイクルコスト)を削減

建物のライフサイクルコストのうち、大部分をランニングコストが占めるため、この費用に対する各種低減手法により、LCCを削減します。

### LCC削減の手法

#### 建設費の削減

- ・敷地のレベルを上げることで掘削土量の削減
- ・山留壁を型枠にして、地下躯体を打設
- ・柱頭免震採用による掘削量の削減
- ・庁舎地下駐車場範囲の縮小
- ・面積縮小による工事費の削減
- ・中央熱源空調+個別分散型空調で機械室面積縮小
- ・耐震構造と免震構造の組み合わせによる躯体量の削減
- ・仕上材のユニット化でコストを削減
- ・再生砕石、再生建材の採用によるコスト削減
- ・既存樹木の保存・利用
- ・伐採した樹木の家具利用

#### 改修・修繕費

- ・スケルトン・インフィルの明確化
- ・屋上緑化と屋上防水の完全分離
- ・設備シャフトの適正化による改修工事の容易化

#### 光熱水費の削減

- ・建築計画による空調負荷・照明要求の低減
- ・輻射空調・床吹出空調を採用し、コスト削減と快適性の両立
- ・再生可能エネルギー（ソーラーなど）の有効活用
- ・北側からの安定した採光
- ・無駄なエネルギー消費防止（中央監視制御・人感センサー）

#### 管理費の削減

- ・自然の灌水システムの構築
- ・植栽の維持管理の容易化
- ・設備機器の更新性の向上、標準品・汎用品の選定
- ・汚れにくい内外装材の採用
- ・メンテナンス費削減（メンテ梯子、機械室の集約化）

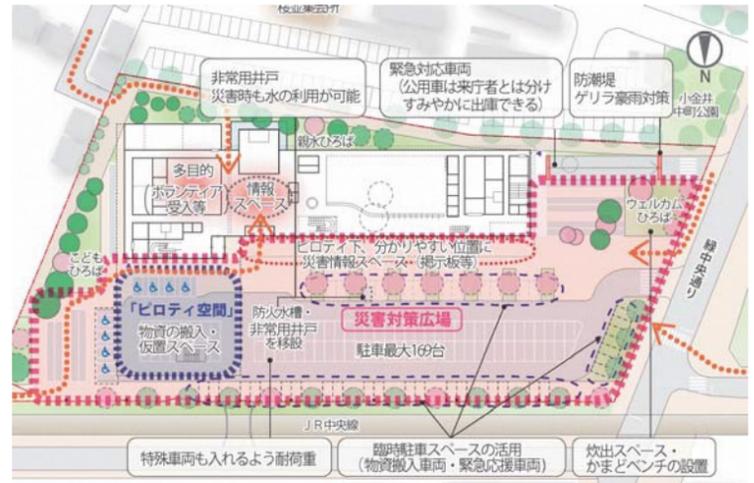
## オープンスペースを最大限に確保

- ・敷地外周部に植栽や歩道を整備し、歩行者（自転車）は安全で快適にアクセスできる計画とします。
- ・高架下の通路にも植栽を配置し、快適な歩行空間とします。
- ・自然と触れ合うことのできる「3つのひろば」をつくります。



### 防災拠点として機能する「小金井ひろば」

- ・駐車場とひろばは平行に配置し、段差をなくすことで、一体に大きなスペースとして利用できます。
- ・福祉会館の大きなピロティは、物資の荷揚げ、荷降ろし、仮置きなど有効に利用できます。



## 自立しつつ連携する…市庁舎+福祉会館

- ・市庁舎と福祉施設は、単独のエントランス・施設内動線を整備し、それぞれが自立した施設として機能します。
- ・開庁時間、開館時間帯の違いにより、セキュリティ区分が選択できるように設定し、庁舎と福祉会館は、それぞれ機能することができるようになります。
- ・複数の交流スペースをつないでくことで、自立していながらもコミュニケーションのネットワークが広がり、相互利用を促すことで市民活動をさらに活性化させます。



お互いの活動が見える吹き抜け空間が市庁舎と福祉会館を結びつけます